

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700645		
法人名	有限会社ケア・ワン		
事業所名	グループホーム ふなお (ピーチ)		
所在地	倉敷市船穂町船穂1953-1		
自己評価作成日	平成 29 年 12 月 25 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&igiyosoCd=3372700645-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 30 年 1 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者がホーム内での集団生活で役割を持つことができるように支援しています。洗濯・食事・掃除・花壇の世話など。利用者がそこに住み生活するという考え、出来るだけその人らしい生活が行えるよう私たちはあくまで支えることを目指しています。中には競艇やパチンコなどを楽しみに行く人もおられますし、コーヒーやアイスを食べに出かけることを楽しみにされている方もおられ、できるだけ今までの生活に近い生活スタイルの維持を継続し、認知症の進行予防に努めています。また、馴染みの職員がずっと寄り添えるよう、介護職員の離職が少なくなるように努めています。介護スタッフが働く場としても環境設備(労働基準法順守・各種保険完備・退職金設備・高齢者再雇用制度の導入や育児休業支援など)を行い、結果として安定した介護サービスの提供に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のペースに合わせた生活支援(入浴、食事時間、嗜好品、娯楽など)が実践されており、生き生きと落ち着いた生活に繋がっている。また、子育てサポートやパート職員も含めた有休取得率100%、ボランティア勤務禁止等、職員が生き生きと働ける環境を整備し、家庭との両立を目指すことで利用者にも還元できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を見やすい場所に掲示いつでも確認できるようにしています。	覚えやすく分かりやすい理念を各ユニットの事務所に掲示し、職員に周知している。振り返りはこれからである。	理念を振り返ることで、更なる浸透に期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から、様々な農産物をいただき、それをジャムや漬物にしてお返しをしたり、ご近所に配ったり等、昔ながらのご近所付き合いをしています。	町内会に入会し、地域の溝掃除に参加したり、中学校の夏ボランティアを受け入れたり、併設デイサービスに来る保育・幼稚園児の慰問を觀に行ったりしている。また、毎年1回商工会主催のバザーに出店し、PR活動しながら地域の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	花火大会やブリの解体ショー等でご近所の方に来ていただき、地域の方との交流を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホーム内での活動を報告し、意見やアドバイスをいただいています。またそれを、現場で話し合いをし、ホームに活かせる形に変えて実践しています。	介護保険課の人や近くの住民、家族などが参加して、運営推進会議を開催している。出席者から地域のイベント情報を貰ったり、生活の知恵を教わったりしながらサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や社会福祉事務所等処遇の対応に困った時にはすぐに連絡し相談しています。(後見人・生活保護の事など)	介護保険の改正について尋ねたり、市の介護保険課から勉強会等の案内が来れば参加するようにしている。また、福祉事務所の担当者と顔なじみであり、生活保護の関係で連絡を取り合いながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作り、参考資料と一緒にファイルいつでも閲覧できるようにしています。また、会議で話をしたりしています。	マニュアルを各事務所に設置し、各ユニット会議の中で利用者に対しての身体拘束について話し合い、職員に周知している。年2回、ガイドラインを基に内部研修を行っている。	外部研修への参加に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作り、参考資料と一緒にファイルいつでも閲覧できるようにしています。また、会議で話をしたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用している方がおられます。後見人の方とは連絡を取り合い、必要な情報を共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分説明を行ったうえで同意をいただいています。また、その都度連絡を行って、説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口に意見箱を設置しています。運営推進会議に出席していただいた時にご意見をいただいたり、随時ご意見を伺うようにしています。	面会時に家族から意見や気になる事等を聞くようにしている。聞いた内容は連絡ノートに記入し、職員で共有している。遠方でなかなか来れない家族には電話で様子を報告し、意見や要望を聞いている。利用者の意見等は日常会話から聞き取り、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議、ユニット会議、全体会議を設けています。必要に応じて意見交換をしています。	契約更新時やユニット会議の中で出た意見や提案は全体会議の中で話し合っている。職員から出た意見等は、制服の導入などに反映している。また、職員用の申し送りノートを活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法を順守し、有給全消化、退職金の整備や育児休業の支援等、継続して働ける環境作りをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへ見学に行き意見交換をしたり、社会福祉協議会の会合を通じて地域の同業者と交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人としっかりコミュニケーションを図り、不安や悩み等を聞き出せるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	細かな事でも連絡、相談をしてご家族とお話をしっかりと行い、ご家族の不安や悩み等を聞き出せるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族としっかりお話しし、他のサービスも含めた幅広いサービスを考察できるように心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様ということに変わりありませんが、共に生活をしている家族のような信頼関係を築けるように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	隔月でグループホームの新聞と生活状況報告を郵送しています。各種相談などを面会時や電話連絡など行い信頼関係を築けるように心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望があれば以前住んでいたところに出掛けたり、電話をかけた、手紙を出したりなどの支援をしています。	利用者が希望すれば事務所から家族に電話をかけたり、年賀状を書いたりして、馴染みの関係を継続支援している。また、元の家や隣接した馴染みのデイサービスに出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間に職員が入り、話がしやすいように環境作りをし、職員が寄り添うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には、サービスが中止されてもご本人やご家族のフォローや相談、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活への意向をお聞きしケアプランに取り入れています。日々のお話の中から要望が出た時には、その都度対応しています。	何気ない日常会話の中から思いや意向を把握している。また、デイサービスや居宅のケアマネジャーから詳しく生活歴を聞き取り、困難な人も利用者に合わせて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族、ご本人から生活歴をお聞きしています。日常の会話などからも今までの生活を知るように心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常にしっかりとコミュニケーションを取るように心掛け、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度のモニタリングの実施、毎月会議の際に課題やケアについて話し合っています。また、申し送りノートを活用し、細かいことも意見交換しています。	毎月行うケアカンファレンスを通じて課題や気づきを出し合い、利用者本位のプランを作成している。見直しは1年を目安とし、利用者の状態・状況、入退院により随時対応している。また、会議録や申し送りノートを活用しながら、全職員で情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日勤帯、夜勤帯の様子を記入しています。特変があった時には、別ノートにも記入し、職員全員が共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人的な旅行、競艇やパチンコ、コーヒーを飲みに出かけるなど、柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花火大会、ブリの解体ショーなどで地域の方との交流を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診にて、定期的な診療を受けられるようにしています。緊急時にも、対応があり適切な医療が受けられています。	家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援に取り組んでいる。月2回協力医による訪問診療があり、受診対応は職員が行っている。主治医の支持の下、訪問看護も取り入れている。歯科往診もあり、随時対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師により状態確認、医師との連絡をとっています。訪問看護への連絡により、必要な受診、看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会や電話により、状態把握を行い、退院時期の話を行い、退院後の生活についての助言をいただくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのチーム化、マニュアルがあり、ご本人、ご家族に説明し、同意書をいただくようにしています。	入居の際、看取りの同意書を交わしている。緊急連絡先を締結し、チームで終末期対応に取り組んでいる。看取り後は必ず振り返りを行い、今後の対応に活かしている。看護師が講師となり、全職員対象の内部勉強会を行ったり、外部の勉強会(特養)にも参加したりして、スキルアップを図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し見える所に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、職員の防災意識を高めています。また、地域への協力も事前にお願ひしています。	昼夜を想定した避難訓練を利用者と一緒に行っている。年1回消防署立会いの下、消火器の使用方法などを学んでいる。地域の人の参加や備蓄はこれからの課題である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年輩であり、お客様という意識を常に持ち、言葉かけや対応を行っています。	オシメ交換時の居室ドアの開閉やバルーンの配慮等、利用者のプライバシーを損ねない対応に努めている。また、呼称に関して「～ちゃん」付けは禁止とし、親切、丁寧な言葉使いに取り組んでいる。	トイレ内の記名の配慮に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいような言葉かけを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の大まかな流れはありますが、あくまで利用者様のペースで過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人お一人の好みの服装やおしゃれをしていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはお好きなものをお聞きして用意したり、普段も皆さんに相談しながら食事を用意しています。下ごしらえや、食事の片づけなどをお手伝いしていただいています。	隣接するデイサービスや事業所内で行事がある時は、職員が手作りしており、利用者も出来る事(机や食器拭きなど)を手伝っている。利用者の現状や好みに合わせてミキサー食にしたり、魚を肉に変えたりして対応している。また、月1回外食やお弁当を購入したりして、食事が楽しみなものになる様に工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や主文摂取量を記録に残し、量が低下している方には、刻み食、軟飯にしたり、医師に相談して栄養補助食品を用意する等対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしています。夕食後は、義歯の洗浄をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導、声かけを行っています。	ポータブルは使用しておらず、自立している利用者が数名いる。日中・夜間問わずトイレ誘導を基本とし、オシメやパットは利用者に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある方には、しっかり水分を摂って、運動をしていただくなど、取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は決まった曜日、時間にて入浴を行っています。要望があれば、希望に沿ったお時間で対応できるように努めたいと思っています。	週3回入浴支援に取り組んでいる。利用者が希望すれば夜間入浴にも対応している。バスクリンで香りを楽しんだり、季節のゆず湯を提供したりして、楽しく入浴できるよう工夫している。入浴を拒否する場合は、職員や時間を変えたり、日をずらしたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設の大まかな流れはありますが、離床の時間によく眠られている時などは、無理に起きていただくかず、ゆっくりと過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の袋に、名前、日付けが印字しており、服薬直前に確認をしながら服薬をしていただいています。個人記録にそれぞれ飲まれている薬の一覧表があります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人的な旅行、競艇やパチンコ、コーヒーを飲みに出かける等、支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある時には一緒に散歩に出たり、移動販売車に買い物に出たり等の支援を行っています。個人的な旅行、競艇、パチンコ、コーヒーを飲みに出かける等、支援をしています。	事業所周辺を散歩したり、週3回スーパーへ買い出しに行ったり、日頃から利用者の希望する外出先へ出かけたりしている。また、家族協力の下、正月に外泊する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方がお小遣いとしていくらか持ち自己管理をされています。外出時や「移動販売車でお好きなものを買われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で、電話をかけたり、手紙を出したり、支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りをつけたり、利用者様を含めて話をしながら決めています。	ホールには空気清浄器と加湿器が配置され、快適に暮らせる空間が広がっている。また、天窓から入る陽光が天井から吊るされた布を通して優しくホールに注いでいる。テーブルの配置は利用者に合わせて随時、変更している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに何か所か自由に集まる空間があるので、お好きな所で自由に過ごしていただけます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お家で使われていたタンス等を持ち込んでいただき、使っていただいています。	自宅から馴染みのタンスやソファ、化粧品、ぬいぐるみなどが持ち込まれ、利用者の生活スタイルに合わせた居室となっている。また、職員の動きやすさや車椅子の人でも楽に動ける様、動線を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、車椅子の自走スペースも十分確保できていて、安全かつ自立した生活を送れるように工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370207544
法人名	有限会社ケア・ワン
事業所名	グループホーム ふなお (マスカット)
所在地	岡山県倉敷市船穂町船穂1953-1
自己評価作成日	平成 29 年 12 月 26 日 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&idgyosyoCd=3372700645-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	平成 30 年 1 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者がホーム内での集団生活で役割を持つことができるように支援しています。洗濯・食事・掃除・花壇の世話など。利用者がそこに住み生活するということを考え、出来るだけその人らしい生活が行えるよう私たちはあくまで支えることを目指しています。中には競艇やパチンコなどを楽しみに行く人もおられますし、コーヒーやアイスを食べに出かけることを楽しみにされている方もおられ、できるだけ今までの生活に近い生活スタイルの維持を継続し、認知症の進行予防に努めています。また、馴染みの職員がずっと寄り添えるよう、介護職員の離職が少なくなるように努めています。介護スタッフが働く場としても環境設備(労働基準法順守・各種保険完備・退職金設備・高齢者再雇用制度の導入や育児休業支援など)を行い、結果として安定した介護サービスの提供に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のペースに合わせた生活支援(入浴、食事時間、嗜好品、娯楽など)が実践されており、生き生きと落ち着いた生活に繋がっている。また、子育てサポートやパート職員も含めた有休取得率100%、ボランティア勤務禁止等、職員が生き生きと働ける環境を整備し、家庭との両立を目指すことで利用者にも還元できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を見やすい場所に掲示いつでも確認できるようにしています。	覚えやすく分かりやすい理念を各ユニットの事務所に掲示し、職員に周知している。振り返りはこれからである。	理念を振り返ることで、更なる浸透に期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から、様々な農産物をいただき、それをジャムや漬物にしてお返しをしたり、ご近所に配ったり等、昔ながらのご近所付き合いをしています。	町内会に入会し、地域の溝掃除に参加したり、中学校の夏ボランティアを受け入れたり、併設デイサービスに来る保育・幼稚園児の慰問を親に行ったりしている。また、毎年1回商工会主催のバザーに出店し、PR活動しながら地域の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	花火大会やブリの解体ショー等でご近所の方に来ていただき、地域の方との交流を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホーム内での活動を報告し、意見やアドバイスをいただいています。またそれを、現場で話し合いをし、ホームに活かせる形に変えて実践しています。	介護保険課の人や近くの住民、家族などが参加して、運営推進会議を開催している。出席者から地域のイベント情報を貰ったり、生活の知恵を教わったりしながらサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や社会福祉事務所等処遇の対応に困った時にはすぐに連絡し相談しています。(後見人・生活保護の事など)	介護保険の改正について尋ねたり、市の介護保険課から勉強会等の案内が来れば参加するようにしている。また、福祉事務所の担当者と顔なじみであり、生活保護の関係で連絡を取り合いながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作り、参考資料と一緒にファイルいつでも閲覧できるようにしています。また、会議で話をしたりしています。	マニュアルを各事務所に設置し、各ユニット会議の中で利用者に対しての身体拘束について話し合い、職員に周知している。年2回、ガイドラインを基に内部研修を行っている。	外部研修への参加に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作り、参考資料と一緒にファイルいつでも閲覧できるようにしています。また、会議で話をしたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用している方がおられます。後見人の方とは連絡を取り合い、必要な情報を共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分説明を行ったうえで同意をいただいています。また、その都度連絡を行って、説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口に意見箱を設置しています。運営推進会議に出席していただいた時にご意見をいただいたり、随時ご意見を伺うようにしています。	面会時に家族から意見や気になる事等を聞くようにしている。聞いた内容は連絡ノートに記入し、職員で共有している。遠方でなかなか来れない家族には電話で様子を報告し、意見や要望を聞いている。利用者の意見等は日常会話から聞き取り、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議、ユニット会議、全体会議を設けています。必要に応じて意見交換をしています。	契約更新時やユニット会議の中で出た意見や提案は全体会議の中で話し合っている。職員から出た意見等は、制服の導入などに反映している。また、職員用の申し送りノートを活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法を順守し、有給全消化、退職金の整備や育児休業の支援等、継続して働ける環境作りをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへ見学に行き意見交換をしたり、社会福祉協議会の会合を通じて地域の同業者と交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人としっかりコミュニケーションを図り、不安や悩み等を聞き出せるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	細かな事でも連絡、相談をしてご家族とお話をしっかりと行い、ご家族の不安や悩み等を聞き出せるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族としっかりお話しし、他のサービスも含めた幅広いサービスを考察できるよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様ということに変わりありませんが、共に生活をしている家族のような信頼関係を築けるように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	隔月でグループホームの新聞と生活状況報告を郵送しています。各種相談などを面会時や電話連絡など行い信頼関係を築けるように心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望があれば以前住んでいたところに出掛けたり、電話をかけたり、手紙を出したりなどの支援をしています。	利用者が希望すれば事務所から家族に電話をかけたり、年賀状を書いたりして、馴染みの関係を継続支援している。また、元の家や隣接した馴染みのデイサービスに出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間に職員が入り、話がしやすいように環境作りをし、職員が寄り添うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には、サービスが中止されてもご本人やご家族のフォローや相談、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活への意向をお聞きしケアプランに取り入れています。日々のお話の中から要望が出た時には、その都度対応しています。	何気ない日常会話の中から思いや意向を把握している。また、デイサービスや居宅のケアマネジャーから詳しく生活歴を聞き取り、困難な人も利用者に合わせて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族、ご本人から生活歴をお聞きしています。日常の会話などからも今の生活を知るように心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常にしっかりとコミュニケーションを取るように心掛け、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度のモニタリングの実施、毎月会議の際に課題やケアについて話し合っています。また、申し送りノートを活用し、細かいことも意見交換しています。	毎月行うケアカンファレンスを通じて課題や気づきを出し合い、利用者本位のプランを作成している。見直しは1年を目安とし、利用者の状態・状況、入退院により随時対応している。また、会議録や申し送りノートを活用しながら、全職員で情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日勤帯、夜勤帯の様子を記入しています。特変があった時には、別ノートにも記入し、職員全員が共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人的な旅行、競艇やパチンコ、コーヒーを飲みに出かけるなど、柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花火大会、ブリの解体ショーなどで地域の方をの交流を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診にて、定期的な権料を受けられるようにしています。緊急時にも、対応があり適切な医療が受けられています。	家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援に取り組んでいる。月2回協力医による訪問診療があり、受診対応は職員が行っている。主治医の支持の下、訪問看護も取り入れている。歯科往診もあり、随時対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師により状態確認、医師との連絡をとっています。訪問看護への連絡により、必要な受診、看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会や電話により、状態把握を行い、退院時期の話を行い、退院後の生活についての助言をいただくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのチーム化、マニュアルがあり、ご本人、ご家族に説明し、同意書をいただくようにしています。今回、看取りをGHで行い、家族の意向もききながら、スタッフで出来ることを行った。	入居の際、看取りの同意書を交わしている。緊急連絡先を締結し、チームで終末期対応に取り組んでいる。看取り後は必ず振り返りを行い、今後の対応に活かしている。看護師が講師となり、全職員対象の内部勉強会を行ったり、外部の勉強会(特養)にも参加したりして、スキルアップを図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し見える所に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、職員の防災意識を高めています。また、地域への協力も事前にお願ひしています。	昼夜を想定した避難訓練を利用者と一緒に行っている。年1回消防署立会いの下、消火器の使用方法などを学んでいる。地域の人の参加や備蓄はこれからの課題である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年輩であり、お客様という意識を常に持ち、言葉かけや対応を行っています。	オシメ交換時の居室ドアの開閉やバルーンの配慮等、利用者のプライバシーを損ねない対応に努めている。また、呼称に関して「～ちゃん」付けは禁止とし、親切、丁寧な言葉使いに取り組んでいる。	トイレ内の記名の配慮に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいような言葉かけを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の大まかな流れはありますが、あくまで利用者様のペースで過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人お一人の好みの服装やおしゃれをしていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはお好きなものをお聞きして用意したり、普段も皆さんに相談しながら食事を用意しています。下ごしらえや、食事の片づけなどをお手伝いしていただいています。	隣接するデイサービスや事業所内で行事がある時は、職員が手作りしており、利用者も出来る事(机や食器拭きなど)を手伝っている。利用者の現状や好みに合わせてミキサー食にしたり、魚を肉に変えたりして対応している。また、月1回外食やお弁当を購入したりして、食事が楽しみなものになる様に工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や主文摂取量を記録に残し、量が低下している方には、刻み食、軟飯にしたり、医師に相談して栄養補助食品を用意する等対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしています。夕食後は、義歯の洗浄をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導、声かけを行っています。	ポータブルは使用しておらず、自立している利用者が数名いる。日中・夜間問わずトイレ誘導を基本とし、オシメやパットは利用者に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある方には、しっかり水分を摂って、運動をしていただくなど、取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は決まった曜日、時間にて入浴を行っています。要望があれば、希望に沿ったお時間で対応できるように努めたいと思っています。	週3回入浴支援に取り組んでいる。利用者が希望すれば夜間入浴にも対応している。バスクリンで香りを楽しんだり、季節のゆず湯を提供したりして、楽しく入浴できるよう工夫している。入浴を拒否する場合は、職員や時間を変えたり、日をずらしたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設の大まかな流れはありますが、離床の時間によく眠られている時などは、無理に起きていただく、ゆっくりと過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の袋に、名前、日付けが印字してあり、服薬直前に確認をしながら服薬をしていただいています。個人記録にそれぞれ飲まれている薬の一覧表があります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人的な旅行、競艇やパチンコ、コーヒーを飲みに出かける等、支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある時には一緒に散歩に出たり、移動販売車に買い物に出たり等の支援を行っています。個人的な旅行、競艇、パチンコ、コーヒーを飲みに出かける等、支援をしています。	事業所周辺を散歩したり、週3回スーパーへ買い出しに行ったり、日頃から利用者の希望する外出先へ出かけたりしている。また、家族協力の下、正月に外泊する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方がお小遣いとしていくらか持ち自己管理をされています。外出時や移動販売車でお好きなものを買われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で、電話をかけたり、手紙を出したり、支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りをつけたり、利用者様を含めて話をしながら決めています。	ホールには空気清浄器と加湿器が配置され、快適に暮らせる空間が広がっている。また、天窓から入る陽光が天井から吊るされた布を通して優しくホールに注いでいる。テーブルの配置は利用者に合わせて随時、変更している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに何か所か自由に集まる空間があるので、お好きな所で自由に過ごしていただけます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お家で使われていたタンス等を持ち込んでいただき、使っていただいています。	自宅から馴染みのタンスやソファ、化粧品、ぬいぐるみなどが持ち込まれ、利用者の生活スタイルに合わせた居室となっている。また、職員の動きやすさや車椅子の人でも楽に動ける様、動線を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、車椅子の自走スペースも十分確保できていて、安全かつ自立した生活を送れるように工夫しています。		